

はどてもよいお天氣なのです。それに小僧は此の頭木登りが出来るやうになつたので嬉しくてたまらないのです。小僧はトットとかけ足でお庭に出るとお友達の松の木をガリガリと引掻きはじめました。小僧は柔い爪がだん／＼固くなるやうで嬉しくてたまりません。ガリガリガリと研いでおいて一いきにかけて登りました。小さい松の木が揺れて細い葉がパラ／＼と落ちまし。「高いぞ、あゝいゝ氣持」小僧は松の上からお庭を見てゐました。「おやあの木は高いなあ、お家の屋根より高いぞ」小僧は高い木をみつけると登りたくてたまらなくなりました。そこで松の木をそろ／＼降りはじめました。降りるのは登るのより少し怖いのです。ガリ／＼と松の木にしつかりつかまつて途中でくるとポーンと飛び降りました。トットとまたかけ足で高い木のそばへ来ました。グーツと勢よく伸びた若い竹でした。今度はなか／＼うまく登れませんがだつてつる／＼してゐますから。ガリガリガリやつと上まで登れました。「パンサーイ、高いなあ」するとさあ大變、竹は「重いよ、重いよ」といつてグーツと頭をさげはじめ

たのです。「ニヤ、お母さん」小僧はしつかりつかまつたまゝ泣き聲をたてました。「ニヤ、ニヤ、おちてしまふよー」そこへお母さん猫がとんできました。「まあまあ、小僧たらそんなところへ登つてしまつたの。お屋根の上へとび降りてこらんない。」「ニヤ、ニヤ、こわいよー」「お屋根がすぐ下にあるのよ、よくみてとんでこらんない」お母さんにいはれてみると、小僧のつかまつた竹は重い／＼とお屋根のすぐ上へ頭を下げてゐました。「さあよく見ておりのよ、一、二、三」お母さんの聲で小僧は思ひきつてポーンとお屋根にとび降りました。竹も子猫さんよかつたわね」とはねかへつてまたもとの通り

と立ちました。「ニヤ、ニヤ、お母さんも来て頂戴よー」、小僧はお屋根の縁から顔を出して甘え聲でいひました。「今、いきますよ」お母さんが竹につかまると、竹はまた「重いよ、重いよ」といつて前よりもつと頭をさげました。お母さんはポーンと上手に小僧のそばへおりました。竹はまたビラ／＼とはねかへりました。「お母さん、この水白い木ね」小僧はまだ少し胸がどきどきしてゐましたけれど、強さうにいひました。「これはね竹つていふのよ、お母さんは教へてくださいました。それから高いお屋根からだん／＼に低いお屋根へおりてお家へかへる道も教へていただきます。

愛兒の保育期を顧みて

松本しづ

「赤ちやんで病氣もさせずにあんよが出来た、よく色々の物がいたとける様になつた。」

お友達とよく遊べる様になつた」と喜んで

で許りるる時期も過ぎて、吾が子もそろそろ團體生活をさせねばならない時が來ました。

幼稚園に入れなければならぬが、然し

今迄毎日家で手廻るにまかせて育つて來

た此の子が家から離れてたとへ一日の中の何時間かでも小さい乍ら社會人としての生活が出来てであらうかと色々迷ひは致しましたものゝ決心致しました。さて何處の幼稚園を選んだものでせう、何と申しましても倉橋先生の居られる幼稚園に越した事はないのですが、さう思ひ通りに行く筈もない、兎に角試験を受ける事に致しました。

幸運にも許可を手にしました日。その喜ひは家中に一生に一度の春の思ひをいたさせ涙が出る程で御座いました。

第一學年 四月八日がどんなに待ち遠しく思へた事でせう。あれもこれもと準備に幾日も費していよいよ登園第一歩を踏み出した第一日、そつと幼稚園にお預けいたして迎ひに行きました所

「今日はお一人だけ 小使さんのお部屋で他のお友達の動作を見てゐらつしやいました」と伺つた時の驚き。之からの不安。「皆さんに追いついて行けるかしら」「やつぱり無理だつたのではないのかしら」「明日からどういふ風にしたらよいのかしら」と思ひは千々に碎けて、その夜一夜は一睡もせず

明かした事でお座いました。

出遅る第二日。心を鬼にして先生にお願ひして來ましたが、どうやら無事に過ぎ來ましたやうでした。餘り大事を取り過ぎ一育て、參つた親の罪に、ひし／＼と迫る後悔も致されました。たゞ念ずることは毎日を休ませたくない一心で、言ひきかせもいたしなだめたりもして登園させました。

二三日と立つうちに勇んで家を出る様になりましたので、ホッと致しました。その時はたゞもう子供が喜んで出かけて行く姿と心根が何よりで外に何の望みも御座いませんでした。

一ヶ月餘り立ちます中にもう幼稚園が子供の生活になつてしまひました。保護者會で色々のお話を伺ひ、園内の様子を拜見致しまして健康な環境と設備が行届いて居ります事が人一倍羸弱と思はれる子供にとつて嬉しかつた事で御座います。先生のお骨折で日一日と楽しい共同生活に親しんですつかり元氣な子供になつて參る吾が子の姿に、どれ程の感謝を込めて先生方のお骨折を陰乍ら身に泌みて有難く思つた事で御座います。そろ／＼いたづらがはげしく

なり叱らなければならなくなつて來ました。五月の晴れた日。久米川への遠足。歩けるかしらとも思ひ煩ひ、先生のお迷惑は如何かと心碎きましたのに、案外の元氣さで歸宅いたしましたので驚かされました。心身がこれ程迄に此の子を強靱に育くみ培つて頂けたのかしら、と唯々一日一日の先生方の御努力に感謝致す許りで御座いました。六月も半ばを過ぎる頃から暑さの爲か幾分疲労するかの様に思はれましたので、歸宅直後には晝寝をいたさせましたせいか缺席いたす事もなく保ち續けて參り、登園を喜び毎日さげたハンカチもエプロンも眞黒にして參ります。夜はタワシでこすらなければきれいならない足。「お丈夫になつてよく運動するよい子になりましたね」とほめる日が續いてまゐりました。もう風邪をひいては大變などと言ふ心配も薄らぎやつと一人前のお交りが出來ます様になりました事はどれ程の嬉しさでありました事か。それにつけても思はれてならなかつた事は家でかゝると同様に先生にもどれ程の御迷惑をおかけして居ります事やら、いく度かして頂いたお話を伺つてどんなに感謝

いたして居りました事か。

こんなに元氣になり、登園いたす事をもう何よりの楽しみとして居ります見妹のなにい此の子にとりましては休みの日程淋しい事はない様子で御座いました。それなのに暑中休暇といふ長い休みがまゐりました。さてどうして過させてやりませうかと又なやみの種となりました。七月中は出来るだけ登園中と變りのない生活をいたさせやうと努めて参りましたが、顔色もすぐれず瘦せてさへ参る様に思はれました。思ひ切つて下田の海邊に連れて参りました。三日目頃から又健康をとり戻して参りました。十日餘を過して歸京しその後も機會を作つては外出致させる事に努めました爲か體重も増して第二學期の備へが出来た様に思はれました。日々無事に過し十月に入りました。子供の楽しみにして居りました運動會と遠足が續けてありました。歸宅後は徒競走の練習です。當日までどんなに練習した事でせうか、その運動會の當日何となく元氣がなく、終ると同時に發熱して續いて行はれる此の子にとりましては待望の遠足。

字掘りの遠足も一日違ひで止むなく斷念致

させなくてはならぬ事になりました。が後に償ひのつもりで田舎へ一日連れて参り畑の芋を取らせて来て慰めた事も御座いました。發熱は致しましても先生のおかげで毎日鍊成されました體は今迄の様に長びく事なく二三日で切り上げられました事に驚かされもし唯々感謝致されるばかりで御座いました。其の後の或日參觀させて頂きました。他の方に比べて見劣りはして居りませ

が今迄の吾が子と比較して種々の動作や作品を見ました時はよくあそこまで参れたものだと言の通り有難涙がにじんで参るのを抑へきれずに居りました事も御座いました。半年前までは、一人で用を足す事も、食事する事も出来なかつたあの子が、今お友達とあんなになまいきな口をきいて話合つたり、遊び乍ら一日と智恵づけられ辨へられて來ました事は親がどれ程の努力で躰け様と致しても出来る事ではない、こうした環境と生活によつて教へられ導かれてこそはじめて出来る結果であり感謝の外に言葉もないと思ひ乍ら參觀させて頂いて参りました。十一月、そろ／＼身にこたえる寒さがやつて参りました。毎年厚着と風

邪の爲にはなやませられる此の子、どうかして今年は無事に過ぎさせたいと豫防の爲毎晩うがひもいたし、吸入も十一、十二の二ヶ月は續けて致しました。お蔭で厚着は免れませんでしたが風邪の爲にお休みする事もなく、雨の日も雪の日も喜んで登園致しました。三月に入つて寒さもだん／＼緩びて益々元氣に第一學年を修了致す事が出来ました。

第二學年 國民學校のいはゞ準備學年に進んだわけで御座います。之からは唯遊ばせてのみ居てはいけません。遊びの後の整理整頓位はちやんとさせて、數も數へられる様に、片假名位は讀める様にと心構へて試みる事に致しました。先づ第一に健康、四月の半頃から朝早く十五分位の駈足と通園も二十五分位の所を徒歩にしました。四月終り頃には平氣になり益々丈夫になつて來ました様です。幼稚園でも相當悪い事もし、お叱りを受ける目もありました様に伺ひました。歸宅いたしますと殆んど外でどろどろになつて参ります。

そろ／＼體の方はよいと考へ、數へ方な教へて見ました。夜床に入つてからも百ま

で喜んで敷へながら寝みます。いつの間にか覺えた様です。繪は下手な様ですから何とかして畫かせて見たいと思ひましたが好みませんので、御迷惑でも先生におまかせしたきりで御座いました。字はいつの間に自然に讀める様になつて参りました。六月の半頃に、「落付かなくなり出しました」との御注意から朝の躰足を中止して、毎朝テヂオ體操をさせて見ました。その後だんだんよくなつて來た様です。暑さの爲の過勞だつた様にも思はれます。又そろ／＼晝寝もさせて見ましたが、此の子の健康状態からは眞によい結果の様に思はれました。此の頃から職況を聞きたがりました。食前の御挨拶「ヘイタイサンアリガタウゴザイマス。イタゞキマス」の感謝の言葉も判つてまゐりました様子です。先生のお話を伺つたり、少國民新聞の讀める處を見覺えたりするので御座いませうか、兵器、國名等も話の中に出てまゐるやうになりました事は、時代の子供だと感にたへたことでも御座いますが、同時に又一步進んだ幼稚園のお躰をも想像致した次第で御座います。第一學期も修了。

第二學期。いよ／＼初等科入學準備期に入つてしまひました。家庭では何を準備したらよいかと考へました末、狭い庭に、竹登り、低鐵棒、平均臺の粗末な三機具を揃へて遊びながら練習させる様にしむけましたが、然しその使用は御近所の大きいお子様のお役に立つのが大半であつた様な結果となりました。目の前にその様な状態を知りながら、どうかしてよい國民學校に入學出來ればと願へてなりませんでした。出來ます事なら同じ場所が望ましく思へましたが、何しろ今年は十六名の極めて限られた少數。なやまされましたので、せいお仲間に入れて頂けるかしら、又入學してから人並に出來ますかしらと文理大のテストを受けました結果、秀の部にやつとながらも入るといふお話を御座いましたもので、大それた事では御座いましたが受持の先生に萬事お願ひ致しおまかせ致しました。毎日のお遊びの中に種々御準備下されました先生のお蔭で、あの子と致しましては分に過ぎたと思はれます附屬國民學校初等科入學の喜びも得させて頂けました事、これは唯一重に先生の御導きによる事と感謝で胸が一

杯で御座います。長い毎日を家庭では及びもつかない御努力とお躰をもつて、赤ちやんから子供へと此の様な素朴さと素直さで、自然にお申し下さつた先生方への心からの御禮の御言葉に代へて拙い乍らも眞實な思ひ出を綴り合はせて御挨拶に代へさせて頂きます。

◎係よりのお願ひ

「日本幼兒號」飛行機の獻納金や會費其他の費用を電報爲替で送つて下さる方がございますが、この場合は電報とは別に、送り人の住所姓名をお知らせ下さい。御送り下さつた方は、電文の末尾に名を附記したから、それに永い間の協會の會員だから分るだらうと思召してございませうがこちらは何しろ大勢のことでもあり、送り人の姓名住所を調べるのに、も寄りの郵便局では分らず本局まで出掛けて調べ、それでも分らない事が多いのでございます。右様の次第、どうかお忘れなく御送金と同時に必ず住所姓名をお知らせ下さいませ。

昭和十九年六月

日本幼稚園協會事務